地域のポテンシャルを引き出す千葉県北西部の新たな道路

～パネルディスカッション～

国道16号の渋滞解消へ

テーマ1　千葉県北西部の道路交通の課題

草野　本日のパネルディスカッションでは、千葉県北西部の道路交通の課題と、新たな道路に期待する効果について、議論を進めてまいりたいと思います。それではまず、皆様自己紹介を兼ねていただきながら、北西部の道路交通の現状認識と課題について、お話を伺ってまいりたいと思います。初めに柏市長の秋山様に伺います。

秋山　柏市は、南北に国道16号、東西に国道6号、北部に常磐自動車道と、道路の利便性は非常に高い一方、国道16号は、直轄国道の中で、全国ワースト1位と2位を占める渋滞区間があり、運転者や生活に使用している市民にとって大きな問題となっています。経済的、間接的な負担が大きいため、この国道16号の渋滞を解消するのが柏市の大きなテーマであり、願いです。柏市は、陸の要所ということで様々な物流基地・商業施設の立地が増えているのはありがたいことですが、更に渋滞が悪化しているため、これを解消して、生活にとっても経済的にも発展の扉を開いていきたいと考えています。国道16号の渋滞を避けるために生活道路を抜け道として使用されますが、学生の通学時間と重なり、市民生活における危険性といった部分で大きな影響があります。

草野　もう30年以上前からこの問題を抱えつづけているエリアということですよね。それでは続きまして、我孫子市長の星野様にお話を伺います。

星野　国道16号が渋滞すると、我孫子市内の主要道路である国道6号はもっと大きな渋滞となります。また、田中調節池の市道は、数年前には毎日2万台を超える交通量があり、昨年の台風19号のように調節池の道路が水没してしまうと国道6号や国道16号以外の道路まで大きな渋滞を引き起こしてしまい、災害時に必要な物資の搬送や職員の派遣に支障をきたします。救急搬送も大きく遅れてしまうというように日常生活にまで支障をきたすことを考えると、通過交通と日常生活の交通を分けられるような幹線道路が必要だと思います。

草野　昨年、台風で水没し、使えなくなってしまった田中調節池内の市道は、本日、民間企業から唯一参加していただいている（株）ニッチューの平塚様は、日常的に使ってらっしゃるんですよね。

平塚　工場のある我孫子市に来る際は、柏ICで高速道路を降り日常的に田中調節池内の市道を利用していますが、この市道が通行できなくなると、国道16号の通行を余儀なくされ、時間が読めなくなります。昨年の台風19号時は、この市道が水没し通行できなくなり、社員も物流も身動きできない状況で、仕事を進める上で、予定時間を組めませんでした。また、我孫子市で起業する会社は時間との戦いです。移動や輸送に時間がかかるということは、我孫子市に工場を持っている意味がなくなるというほどの危機感があると思います。なお、従業員の間には、「夕方の渋滞のせいで早く帰っても遅く帰っても同じ、ならば仕事する」という雰囲気があります。

草野　私も仕事で都内から千葉県に取材に来る際、国道16号は時間が読めないため、途中で車を降りて電車で向かうことが度々ありました。時間が読めないのはなかなか厳しい問題であると感じております。それでは続きまして、交通の専門家の寺部先生に伺っていきます。

寺部　道路の機能には、できるだけ速いスピードで多くの交通量を流すための「トラフィック機能」と、自宅や店舗に入るための「アクセス機能」の2種類があり、幹線道路や高速道路のような自動車専用道路に関してはトラフィック機能の方が重要です。国道16号は環状道路であり、あたかも幹線道路のようですが、実際はトラフィック機能が失われていて、「これ問題だよね」という話をよくします。その原因は沿道へ建ち並んでいる各店舗に入るためのアクセス機能の方が強くなってしまっているためであり、トラフィック機能を重視する上では、大都市間を結ぶ、あるいは工場等への輸送のための道路であるべきです。国道16号が本来果たすべき機能を果たせていないのが問題かなと思います。

＜パネリスト＞
東京理科大学　理工学部
土木工学科　教授
寺部 慎太郎（てらべ しんたろう）氏

＜パネリスト＞
柏市長
秋山 浩保（あきやま ひろやす）氏

＜パネリスト＞
国土交通省　関東地方整備局
千葉国道事務所長
坂井 康一（さかい こういち）氏

平時・災害時を問わない安定した人・モノの流れの確保へ

草野　千葉国道事務所長の坂井様は、千葉県北西部に、どのような印象をお持ちですか。

坂井　トラフィック機能とアクセス機能が分担されることによって、道路交通の円滑化、地域の交通安全に寄与することが期待されます。国道16号の渋滞によって、時間的な損失を相当被っていますが、新たな道路ができることによって、時間短縮や定時性の確保を通じて、地域経済の活性化が期待できます。全国的に災害が激甚化しており、災害に強いまちづくり、災害時の被害を最小限にするためのインフラ機能が求められています。道路の機能や機能を重視した幹線道路と、アクセス機能を重視した生活道路が適切に分担されていることが、道路の機能を発揮するだけでなく、まちづくりや地域の活力に非常に影響すると思っております。平成30年6月に外環自動車道千葉県区間が開通し、脇に一般国道297号もできたことで、いままで狭い市道を抜けていた通過交通がなくなり、生活道路に余計な車が入ってこないことで、地域の道路が歩けるようになったということが象徴的です。国道16号のトラフィック機能は幹線道路としては唯一でもあり、アクセス機能として生活する上でも必要な道路で、両方の機能を担ってしまっているのが大きな課題です。

テーマ2　新たな道路に期待する効果

＜司会＞
フリーキャスター
元NHKアナウンサー
草野 満代（くさの みつよ）氏

草野　新しい道路をつくってほしいという強い声が高まってきているわけですけれども、その新たな道路に期待する効果について伺っていきます。まず寺部先生、道路ができるとどのような効果が期待できるのでしょうか。

寺部　3つ挙げたいと思います。1つめは、幹線道路としてのトラフィック機能が発揮できることで定時性が確保でき、既存の幹線道路と接続し千葉県北西部だけでなく茨城県や東京都にも広がるネットワークが期待できます。2つめは、新たな道路に国道16号等の幹線道路の交通が移ることにより、路線バスの定時性も保たれて使い勝手がよくなり、また混雑を避けて、市道等の生活道路を抜け道として通行していた車が幹線道路に戻ることで、自転車と歩行者にとっても使いやすい道路が増えることにつながります。3つめは、自動運転時代の到来。今まで以上に自由な車の使い方が進む時代が確実に来ますから、生活道路の交通量は増えると考えています。自動運転の時代を見据えて、生活道路をよくする上で、新しい道路ができると住みやすい街になりそうな期待が持てます。

草野　10年程前には考えられなかった自動運転が、本当に進む様子が国土交通省の審議会の中でも示されているため、なるべく早く生活道路と幹線道路をきちんと分けておく必要があると思います。新しい道路に期待すること、星野様お願いします。

星野　新たな道路によって高速道路へのアクセスが向上することにより、企業誘致につながり、税収や雇用の確保、既存企業の更なる拡張、色々なところで大きく期待できます。新たな道路のルートが利根川沿いであることで堤防の強化につながり、沿線の住民にとっても、命の安全や輸送機能を持った道路が近くにあるということは非常にメリットがあります。北千葉道路や常磐自動車道とのネットワークをしっかりつくることで成田空港や東京方面にもアクセスしやすくなるため、住民の声等も届けながら調整に向かって頑張っていければなと思っています。

＜パネリスト＞
株式会社ニッチュー　代表取締役
平塚 勝朗（ひらつか かつろう）氏

企業誘致や地域の利便性向上へ

草野　星野市長の話を受けまして、我孫子市に工場がある平塚様、どのような効果を期待されますか。

平塚　我孫子市には過去に大企業に勤めた経験のある非常に優秀な労働力があります。また、新たな道路ができることで、通勤時間の関係であきらめていた優秀な人材の確保を期待しているところです。調節池は昨年の台風19号で力を発揮し、何百年に渡り氾濫してきた川から多くの人を守ってくれたことに感謝しています。我孫子市には工業団地がほとんど無いため、ものづくりが非常に弱くなっていますが、元は職人が集った歴史ある地です。眠っていた人材を活用するためにも利便性を上げていただければもう一度ものづくりで復活すると思います。

草野　その原動力のひとつが道路ということですね。続きまして秋山様いかがでしょうか。

秋山　柏市民は、渋滞する場所や雨天時の交通状況など、地元ならではの独特の感覚を生活の知恵として、ある程度は「しょうがない」という形で受け止めています。本来であれば、時刻表からある程度の時間でバスが来るのが当然であり、トラフィック機能が確保されることで、バスの定時性など、この地域にとっては驚くほどの効果が出ると思っています。

草野　坂井様、道路事業者の立場で整備効果をお話しいただくのは難しいかもしれませんが、いかがでしょうか。

坂井　トラフィック機能が確保されることで、この地域整備には費用対効果が重要視されてきましたが、地域の活性化や雇用につながる効果など数量化できない便益もあり、特に東日本大震災以降は災害時に発揮する機能などが重要だと再認識されてきています。災害に強いインフラやまちづくりが一層求められているのが最近の大きな流れかと思っております。

草野　新たに「千葉北西連絡道路検討会」が立ち上がり、これから基本的な方針の策定に向けて検討を深めていく段階ですから、「こうした方がよいのではないか」というアイデアを出していくことは、より具体的な検討を進める推進力になっていくと感じております。皆さま、長時間にわたりましてお付き合いいただきましてありがとうございました。

＜パネリスト＞
我孫子市長
星野 順一郎（ほしの じゅんいちろう）氏

地域の活性化だけでなく、市民生活が麻痺しないよう代替ルートとしても機能を発揮するような、災害にも冗長性を持たせた道路が必要です。いままでの道路整備には費用対効果が重要視されてきましたが、地域の活性化や雇用につながる効果など数量化できない便益もあり、特に東日本大震災以降は災害時に発揮する機能などが重要だと再認識されてきています。災害に強いインフラやまちづくりが一層求められているのが最近の大きな流れかと思っております。

草野　新たに「千葉北西連絡道路検討会」が立ち上がり、これから基本的な方針の策定に向けて検討を深めていく段階ですから、「こうした方がよいのではないか」というアイデアを出していくことは、より具体的な検討を進める推進力になっていくと感じております。皆さま、長時間にわたりましてお付き合いいただきましてありがとうございました。

▲国道16号柏トンネル付近の渋滞の様子

開催日：令和2年11月2日（月）　場所：アミュゼ柏　クリスタルホール
主　催：野田市、柏市、我孫子市、印西市、千葉県　後援：野田商工会議所、柏商工会議所、我孫子市商工会、野田市関宿商工会、柏市沼南商工会、印西市商工会